



欽定彙編

七

13
3325
7



13
3325
7

欽定彙編根柢卷之七



目錄

一 飛房亦文多人の女子よゐえの松子を
籠る事

一 姉川七節は虎の肥後の國を立良し事



大正十年八月廿九日寄
本大學出版部贈

新討度根新巻之七

飛舟亦又人の女子よ西之の松子を

つゝる事

一人貪痴ぢねい一玉丸をを覆すとらへ
友も返回父子が横死の娘糸吉園
幸な事の手より糸江産屋御飛舟亦又
が舌(手廻)Pをとりしつゝれば

父と母とのあはれやあはれと
とまきうらまはれやあはれと
多とひらうとよるる秋つりとも
りきうとと流るるてPたれば
又あはれとあはれとあはれと
よれうらまはれやあはれと
のあはれとあはれとあはれと
ごうとととととととととととと

のあはれとあはれとあはれと
いふとととととととととととと
まきうらまはれやあはれと
中まきうらまはれやあはれと
兄とととととととととととと
父とととととととととととと
父とととととととととととと

うきうきと少くもしてその形も
ゆいづきありし十之信眼病も引
更けよ及び一が程よくを
くれはりよくみちより顔ひ出
後めして十之信婦川七節なる
一ありありと形七なる事の
の信人ありし事して後田
福とて高きをさきま
て

事を云やうその人の
物も録よらうとて後田
ゆいづきありし十之信
をPとてありし事
場もありし事とて七
果一物を送る事
把後玉根が事とて
後田後方ありし事
とて

くわい百たんののら移めて互ひよそあ
ぐお致い——暮の夜も歌——
くく多田方好くはた——剣へ父
もとも七郎——たきのがあま討ねのい思剣
又る影をい伯父幸なき引ちめてま
提多（華）の多（）以能念の多田との
ううそをささく終ううあ——
又いちよきあうい見七郎うう）如僕部へ

清く清きううとの幸ううと一部
始終をあううまはらんともよき後
もまうんはは——かお菊のううあ居く
影をうけ端川のうのううあゆりや
とやうう元香ううてうねばらそと十
ま清の伯父七郎なきうう多田反
一賢めや——一言のむちうううう
士はと脚——と情ううて在望気の新

後より自らの美程不めて切後
して其果多し 後孫も七節なるが不
以所而お思はとくも之組推別旧功の
家物之断絶あきれ越く其後より至
老一生孝節家の伝承しれ多し 友婦
川野の魚をれば戻田が後をも以てあさ
まはる白での父なるが形を合せて 弟分娘
よぐごうも家平少く 未竟の者をえま

御身養子とて戻田の家名を其後
伝多し 一の御意ありし 二の目
西家老中より 一は流さね多しと傳り
をおきく再ひりよ小新集の戻田の家
をも思はるゝとの以年一 誠小算加し叶
ひしるあがし 新集の十巻傳は縁組
のこし おやむと かくる
らる 親人の約束し 一は小く十巻傳
及も其土の一言をえりてきて 切後

しとちり

姉川七郎あひまの肥後ひごの國くにを立退たちのり事こと

さて申まをし姉川七郎あひまの事ことを戻かへ田た取とり

を討うて後のちき定さだめしとて越こえ後のち取とり

切き取とり付つけしとて先まづのちと

極きめしとて自分おのれも是こゝで悟さとり

よし先まづ軍いくさ切きりしとて捨すてしとて

弟あに目めを足あらわしむ事ことす

事ことは得えりし事ことを名なを

とて百ひゃく事ことは情なさけを

の事ことは又またもたしめて

増ぞう長ちやうし高たか合あひ夜よ中ちゆうを

りらう後のちあひ白しろきとて

わらう事ことは精せい進しんの

人ひとちうき姉あにの

しとて

事ことは

う家め四功も免し——き物も家をも
その作まよきお——と紙こがよまあ作まの
御ごきごとあ名な知ち極ごくめめののりり——ううここきき
空の年やららすすててるるよよままののびびととままて
願ねが合あののけけらら紙しもも多たくくききららききららくく
ききよよままりりとと見み昇のぼ日ひそのの紙し人ひとををきき
向むかくくまま鳥とり賊ぞく多たととりりままととまま——いししららいいのの甲か
徳とくううわわ考こう知ち書しよ卒そつををななすすまましし
とりり名なああるる
まいいららいいのの甲か
はららいいのの甲か
はららいいのの甲か

り其年そのとしもも学まなべべととああつつるる春はるのの色いろ
多おほのの声こゑ多たよよままのの少すくしし響こゝろりり春はるやや
ここらら長のちう年ねんもも婦あんな川がはをを只ただ死しとと日ひ陰かげ
よよ生なまああるる竹たけああははむむととくく月つき白しろのの色いろ
ううももむむぐぐくく竹たけ年ねん死しああをを連つらねねしし
とおおりりくくもも書しよ卒そつききびびくくちちりり
春はるももねねばば候たふくくをを治ちすす定ちやうんんくく物もの
ををいいららむむららんんがが婦あんな川がはつつくくくくよよまましし

てむらんの様^{もうらご}年^{とし}をぬぐ^ぬく^く——^{——}白^{しろ}日^ひ下^げ
向^{むか}の頃^{ころ}う^う休^{やす}み^みの^のあ^あひ^ひて^て一^{いち}句^くも^も延^{のび}び^び
す^す食^{しょく}量^{りやう}も^も痴^ち——^{——}な^なら^らば^ば自^じ然^{ぜん}と^と書^か筆^{ふで}
も^も句^くを^をう^うり^りと^と言^いふ^ふあ^あら^らう^うも^もう^うり^りと^とぬ^ぬ
際^{さい}を^を何^{なに}の^の心^{こころ}を^をう^うり^りと^とぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら
く^くも^もう^うり^りと^とぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら書^か人^{ひと}も^も是^{これ}を^を
ぬ^ぬり^りと^とぬ^ぬれ^れお^おて^てら^らぬ^ぬれ^れお^おて^てら^らぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら
て^てち^ち他^たの^の解^{かい}り^りと^とぬ^ぬれ^れお^おて^てら^らぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら

年^{とし}を^をぬ^ぬぐ^ぐく^くの^の深^{ふか}の^のぐ^ぐら^らぬ^ぬぐ^ぐ——^{——}と^と思^{おも}は^はす^す
早^{はや}や^や書^かく^くも^もと^とぬ^ぬれ^れお^おて^てら^らぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら
彼^{かれ}前^{まへ}を^を迎^{むか}え^える^るう^うり^りと^とぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら
よ^よの^のち^ちね^ねは^はり^りよ^よく^くと^とぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら
至^{いた}る^るは^は西^{せい}の^のま^まら^らう^うり^りと^とぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら
以^もの^の中^{ちゆう}に^に勝^{かち}つ^つて^て早^{はや}に^にぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら
早^{はや}に^にぬ^ぬれ^れお^おて^てら^らぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら
竹^{たけ}の^のこ^こも^もう^うり^りと^とぬ^ぬれ^れお^おて^てら^ら

